

実践報告

■ 1 テーマ

一人ひとりの力を引き出す題材と授業をどうつくっていくか

神金小学校 広瀬 きよ美

■ 2 はじめに

低学年にとって図工の時間は楽しみな時間の一つである。つくりたい、かきたい、こうしたいという気持ちをもって意欲的に取り組んでいる。中には技術的な問題から思うように表現できない子もいるが、自分なりのイメージを表現しようと作品と向き合い工夫する姿を見ることができる。

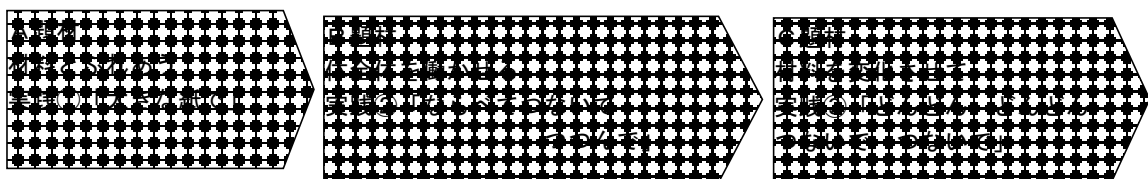
しかし、63次の報告でも課題としてあげられていた「子どもたちの体験の少なさ」は、今でも感じられる。「砂や水を使った造形遊びをしたとき、以前ではあつという間に砂場に大きな山ができ、友だちを協力しながら川や道や建物をどんどんつなげ、子どもたちは泥だらけになりながら全身で活動を楽しんでいた。しかし最近では入学前に砂遊びを思い切りしたことがない子もいて、まず砂や水に触れさせて慣れさせることに時間を費やしてからでないと、活動がつまらないものに終わってしまう。」（63次東山支部古屋）とある。このことは、担当する子どもが変わっても課題として挙げられる。

さらに、造形遊びの活動の実践の少なさから、身近な材料から発想して活動する楽しさを十分味わえていないのではないかと考える。2年生に1年の時取り組んだ造形遊びで覚えていたのは1つ「ならべてならべて」であった。忘れてしまったということもあるかもしれないが、子どもたちにとってはさほど印象に残らなかったともいえる。

子どもたちの経験の少なさを図工の学習の中でどのように補いながら、身近な材料から発想し、体全体を働かせてつくる楽しさを味わわせることができるのか考えていきたいと思った。

■ 3 ねらい

経験の少なさを補いながら、体全体を働かせてつくることの楽しさを味あわせるために、材料とふれ合う時間の確保と指導計画の工夫をしていく



今回は上記のように「新聞紙」を扱った題材を関連づけ、1つの題材が次の題材につながるようにして取り組んでいった。

実践①大きな紙で

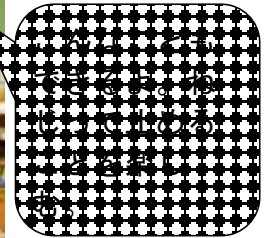


教
椅
子
出
紙
を
て
い

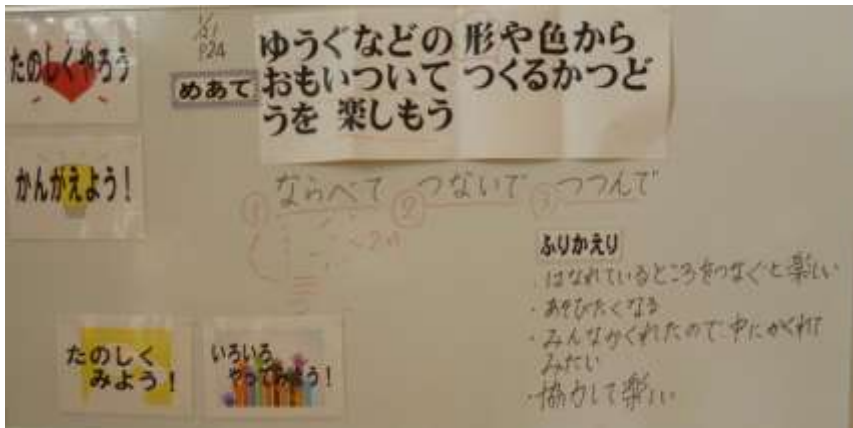


室の机や
をすべて
し、新聞
敷き詰め
った。



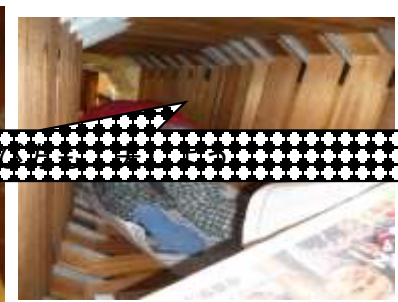


実践②「ならべてつないでつつんで」2 学年



・共通事項をもとにした視
点を明確に提示・・・4つ
の力をカードにして提示

・場所を体育館にし、体育館にある運動用具等を使ってならべたりつないだりした。

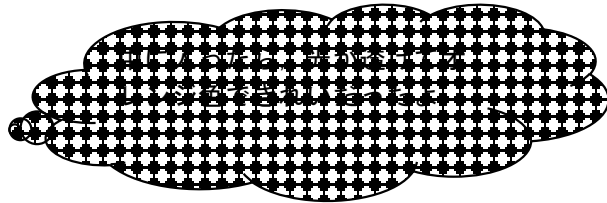


木製遊具の製作

木製遊具の製作

木製遊具の製作

木製遊具の製作



11月25日 水曜日

11月26日 木曜日



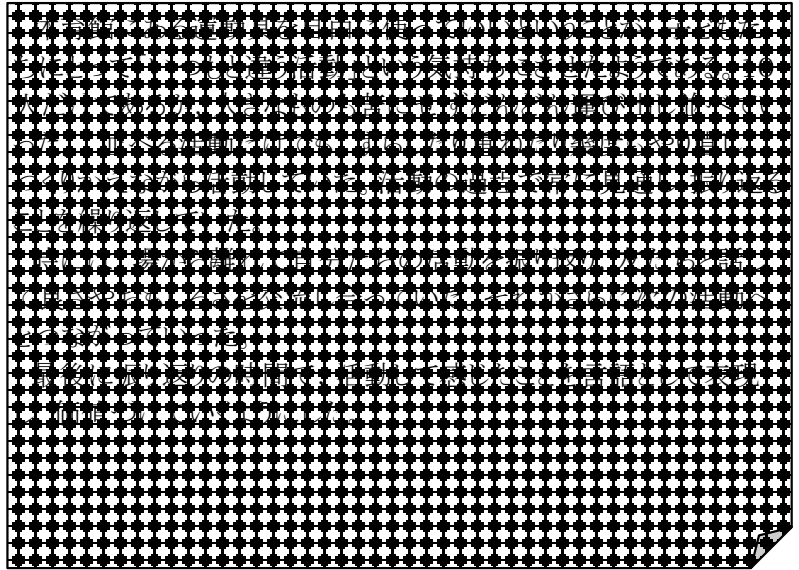
11月27日 金曜日

11月28日 土曜日



11月29日 日曜日

11月30日 月曜日



実践③「どんだん どんだん つないで つないで」

・研究授業として実践した。内容は以下の通りである。

1 題材名 「どんだん どんだん つないで つないで」A表現(1)造形遊び

2 題材について

(1) 児童の実態

男子9名 女子1名、計10名の学級。

図画工作に対する意欲や関心は高い。体験したことや経験したことを絵で表したり、粘土や身近な材料で作りたいものをつくったりすることが好きで、自分の作りたいように工夫をすることもできる。

しかし、切ったり切り抜いたりした仕組みを使った造形活動では、仕組みや手順を理解することが難しい子どもが4名ほどいる。そのため、説明図を使ったり師範して見せたり、グループ内での教え合いなどの支援の工夫を行ったりしている。

また、技術的に表現したいものはあるが、形や絵に表すのが困難な子どももいる。そのため、「自分の表現したいことをもつ(決める)」ことを主に指導してきた。道具の扱いについても、カッターをスムーズに動かしたり、のりを使って紙などを丁寧に貼り合わせる作業が粗雑になってしまったりする子もいる。そのため、のりは日常的に毎日プリントを貼り合わせるようにしたり、カッターは色鉛筆を削りたいという子どもには適宜使用させるようにしている。

(2) 題材の概要と育てたい資質や能力

本題材は、新聞紙をはさみや手を使ってテープ状に切り、それををつなげたり、つり下げたり、広げたりする活動である。徐々に長くなったり、八方に広がったりしていく紙や変化する空間から、子どもは、だんだんと変化していく周囲の様子を好奇心とともに楽しみながら活動をしていくことができるであろう。さらに新たなつなぎ方や活動の工夫が生まれ、自分なりの形を表すことを期待したい。

【育てたい資質や能力】

・教室いっぱいに紙などをつなぐ活動に、体全体を使って関わり、活動の中でできる形の特徴を味わいながら、つくりたいものやつくり方を思いつく。

・思いついたことを基に、さらにつないだり、組み合わせたりしながら、自なりに工夫してつくる。

(3) 指導にあたっての工夫

造形遊びについては、「光のプレゼント」の題材を扱った時、光にすかした色セロハンの影を試したり作ったりして楽しんだが、体全体を使うまでの活動にはなっていなかった。

そこで、新聞紙を使った造形遊び「大きなかみで」「ならべてつないでつつんで」を関連させ、もっとやりたいという意欲が「どんどんどんつないでつないで」へと連続していくように配列し扱うようにした。

導入にあたっては、今回ははさみは使用せず、自分の指先や体全体を使って新聞紙をうまく裂ける方向を試したり裂くときの音を楽しんだりしながら、「手で裂く」行為の心地よさを十分味わわせるようにしたい。

また、「どんどん どんどん つないで つないで」というように題材名に繰り返すことばを使うことで、たくさん裂いたテープ状の新聞紙を「つなげる」という活動がよく分かり、その活動を追求していく姿が生まれることを期待したい。

イメージを表現に結びつけていくため、「材料コーナー」を設定し、新聞紙や色分けしたチラシ、包み紙などを置いて、自分の思いにあった材料を選択できるようにする。紙質も腰のある用紙を織り交ぜておくことで、折ったり曲げたり立たせたりといった工夫ができるようにする。

3 題材の目標

身近にある新聞紙などの材料に手や体全体で関わりながら、切ったりつないだりする活動を通して、子どもたちが自分なりの感覚をいかしてつくることを楽しむ。

4 評価規準

「題材の評価規準」

「題材の評価規準」 「学習活動における評価規準」

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
新聞紙などの材料を切ったりつないだりする活動に、手や体全体で取り組もうとしている。	紙を切ったりつないだりしながら、つくりたい形を思いついている。	紙の切り方やつなぎ方などを工夫している。	材料を切ったりつないだりすることで変化した形のおもしろさに気づいている。

①新聞紙を手を使って細く切ることに興味を持ち、擬音語など	①紙を切ったりつないだりしながら、つくりたい形を思いついたり		
------------------------------	--------------------------------	--	--

で自分の行為を表現しながら繰り返し行おうとしている。	つぶやいたりしている。		
②細く切った新聞紙をつないで広げていこうとしている。	②友だちのつなぎ方や形から、いっしょにできることを思いついている。	① つながる形のおもしろさに気づきながら、つなぐ方向などを工夫している。	①活動を振り返って、活動やつないでできた形のよさやおもしろさを見つけ伝えている。

5 指導計画（全2時間）

時間	主な学習活動	関	発	技	鑑
1	○新聞紙やチラシなどの紙を細長く切ったりちぎったりする活動を楽しむ。 ・自分がしてみたい活動を発表し合い、見通しを持つ。	○	○		
2	○自分が切った紙をつなげていく。 ・周りの机や棚なども使って、どんどんつないでいく。 ・チラシや他の紙など、材料を選択しながら切ってつないでいく。 ○全体を見合って、形や表現のおもしろさ、気づいたことを発表する。 ・つないだ形のおもしろさを話す。			◎	○

6 材料/用具

教師：新聞紙，セロハンテープ，ホチキス，ガムテープ，スズランテープ（ひも），リサイクル紙，画鋏，デジタルカメラ（記録用），4観点カード

児童：新聞紙，セロハンテープ，のり

7 本時の学習

(1) 日時 平成27年2月4日（水） pm 2:00～3:30

(2) 場所 2学年教室

(3) 本時の目標

○紙を細く切って、つなぎ方を工夫して楽しむ。

(4) 展開

	主な 学習活動	教師の支援・指導上の留意点
導入 2 0	<p>●新聞紙を切って形を変えることを知る。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・手で切って見せる。 ・はさみは使わずに切ることを条件 にすることで、試してみたい という意欲を持たせる。

分

- いろいろ試しながら、手で新聞紙を細長く切る。
 - ・ どうすればうまく切れるかいろいろ試そう。
 - ・ 重ねて切れるかな。
 - ・ 向きによってちがうよ。

・ 細くなりすぎないように、目安の幅を切って見せる。

新聞紙を切るときは、手紙の折り目や新聞紙の向きを参考にしよう。

・ 紙の方向性に気づくように、2方向で試させる。

新聞紙の向きを間違えると、切った紙の向きも違ってきます。



新聞紙の向きを間違えると、切った紙の向きも違ってきます。

新聞紙の向きを間違えると、切った紙の向きも違ってきます。

どんどん どんどん つないで つないで

展
開

5
5
分

- 細長く切った紙をつないでいきながら思いついたものをつくる活動を知る。
- 今日は、どの力を 使えばいいか考える。
 - ・ 「いろいろやってみよう」かな

・ チラシやリサイクル紙なども付け加える。



- どんなつなぎ方があるか見通しを立てる。
 - ・長くしていく。
 - ・縦と横バツテンみたいにすれば。
 - ・ほかの紙を使ってみる。
 - ・滝みたいにしたいな。



新聞紙を工夫してつないでいく。縦と横バツテンみたいにすれば、ほかの紙も使ってみる。

- つないでいく。
 - ・チラシや他の紙も使って色を工夫したいな。
 - ・どんどん長くしよう。
 - ・上から垂らしてもいいかな。



縦と横のバツテンをつないでいく。色も工夫してつないでいく。

- 自分で考えたり、友だちの活動を見たりしながら、新聞紙を工夫してつないでいく。
 - ・線路みたいになってきた。
 - ・道路みたい。
 - ・机の上から下につなげよう。

- ・机の上から床面へ活動範囲が広がっている子どもがいたら賞賛し、みんなで机を動かして教室の床面が使えるようにする。
- ・のりでの接着がうまくできるか試して、活動の見通しを持たせる。



の接着も確かめ
は、セロハン
どの使用も考

		<p>えておく。</p>
<p>ふ り か え り 1 5 分</p>	<p>●自分の表現の工夫や友だちの表現の面白さを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・迷路みたいになった。 ・みんなのものがつながって面白い形に見える。 <p>○振り返りカードに、感想を書く。</p> <p>● 片付け（5分）</p>	<p>・教壇の少し高いところから、全体を見渡し活動をふりかえるようにさせる。</p> <p>・自分の感想や全体を見ての感想を意見交換させる。</p>  <p>・意見が多くなったときは、振り返りカードに書くことで、表現させる。</p> <p>・材料の分別，道具の片付けと点検をしっかりとさせる。</p>

「振り返り」から子どもの意見

- ・丈夫なつなぎ方ができた。
- ・赤と緑の組み合わせがよかった。
- ・上や下のつなぎ方が工夫してある。
- ・包み紙の色や模様がきれいに見える。
- ・緑の紙のところがきれい。

「タイトルを付けるとしたら」

- ・どんどんつながる町，線路
- ・駅がいっぱいな町
- ・つながる線路
- ・カラフルな駅

8 授業を終えて



・これまで広げた状態で使っていた新聞紙を「手で裂く」という行為は、子どもたちにとって驚きであり楽しい活動であったようだ。指導者が導入で裂いてみせると、驚きの表情を見せたことから分かった。

・裂く行為が遊びに終わらないように裂くときの音に意識を向けさせたのは良かった。紙を裂く行為を十分に味わわせることができた。

・「つなげる」活動では、子どもの中からどのようにつなげていけばよいのかある程度見通しを持った意見が出た。つなげ方は、床に広げていく活動が主になると予想していたが、さんや机などを利用して高さを使ってつなげていく活動に広がっていった。個で自分の活動に没頭し形にこだわりながらつなげる子や紙の色を考えながらつなげていく子もいた。

- ・「材料コーナー」では、色や種類の違う紙を用意したが、新聞紙を選ぶ子がほとんどであった。
- ・新聞紙を使った造形遊びを意識して関連付ながら扱ったことで、造形遊びに関する意欲が高まり、活動も身体全体を働かせた活動になっていった。

【研究会より】

- ・めあての提示…提示するタイミングなどに工夫が必要であった。
- ・広々とした所でやれば、もっと繋ぎの工夫が出たのではないか。
- ・個の見取りがむずかしい。年間を通じて何がどれだけ達成できたか分かるような評価の工夫が必要。写真（画像）で残していくことが有効。
- ・前の大きなものを包む活動で協力しなければならない状況だったことが、今回も協力してつなげていくという活動になったのではないか。導入の仕方で変わっていくだろう。
- ・「明日も図工をしたい」と言っていた子どもの気持ちを大切にしていきたい。
- ・発言や発表の仕方がしっかりでき、自分の考えを表現し伝えることができていた。

■ 4 まとめ

・単元を関連づけることで、子どもたちが材料や素材とふれ合い試しながら活動していくことができた。そのため、次の授業では「もっとこうしてみたい」という材料からの発想や意欲付けにつなげていくことができた。

- ・一単元においても、材料と出会い、試しながら活動する時間を設定することを有効であろう。
- ・活動の場を工夫し、子どもの活動を切らずに集中して取り組めるように配慮していく。
- ・思考の過程や学びの足あとを残す工夫が必要である。

粘土にふれる時間を2時間使った。はじめは塊を扱うのも大変で、おもいきり身体を使って形をつくる活動をさせた。ひも作りも両手をうまく動かせなかったり、粘土を転がすことがうまくできなかった。

次の時間（3・4時間目）は、図工室の広い机の上で作業できるようにした。ひもをたくさん作り、そのひもでどんな形ができるかみんなで考え、見通しをもたせた。「くるくる」「くねくね」「ぐるぐる」など動きを言葉で表すことで活動の動きにもイメージが自然とつながるようにした。



粘土を丸く転がすまで言葉も見替してイメージも

くるくる、くねくね、ぐるぐる、まわりの

